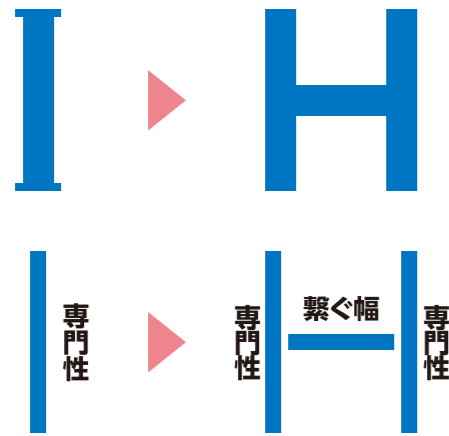


## I型人材からH型人材へ



### H型人材とは

強い専門分野が1つあり、他の人の専門分野と繋がる横樑を持つことで、他の人と繋がりがHになるという「人と繋がれる人材」。

行ったことは、フェイスブックのグループページの活用であった。「これまでの同窓会の主たる情報伝達手段は、メーリングリストであったが、メーリングリストでは送り手と受け手の顔が分からないため、双方向なコミュニケーションツールが可能になるフェイスブックを活用するようになりました。その効果は少しずつ出てきています」

次に、イベントの数を増やし、参加人数を増やすためのプロモーション活動を積極的に行った。イベントの参加人数が増えることによって、「化学反応」が起きやすい環境を作るのが狙いだ。

「化学反応」が数多く生まれると思えます」

### 法律問題にとどまらず 歩み込んだ経営アドバイザー

このように、西村弁護士は、同窓会の運営の中で「H型人材」の重要性について述べているが、「H型」は、自らの弁護士活動においても重要なことと考えている。

「これまで多くの中小企業の支援をさせて頂いておりますが、法務の支援だけでなく、売上を伸ばすための提案や業務効率化の提案をすることもあります。時には、私がハブの役割を果たして新しいビジネスのための紹介をすることもあります。法律問題を解決することはもちろんのことですが、もう少し経営に踏み込んで「H型弁護士」として中小企業支援をしていきたいと考えています」

ビジネススクールでMBAを取得する弁護士はさほど多くないが、さらに、ビジネススクールの同窓会で代表を務める弁護士は極めて稀な存在である。弁護士としても、同窓会代表としても今後の活躍が期待される。

## 弁護士でありながら、ビジネススクール同窓会代表

# 弁護士×MBAが考える 中小企業支援 「H型人材」の魅力

新しい人材の育成、働き方改革が叫ばれる昨今、「H型人材」は様々な業種で求められるようになってきた。そんな中、MBA(経営学修士)を取得、ビジネススクールの同窓会の代表にも就任し、「H型人材」の重要性を訴える弁護士がいる。弁護士業界にも「H型人材」が求められる時代が到来したのか。その真相に迫った。



Takashi Nishimura

## 西村 隆志

西村隆志法律事務所代表

山口県出身。同志社大学法学部政治学科、北海道大学大学院法学研究科修士課程を経て、同志社大学法科大学院修了。2006年司法試験合格、2007年弁護士登録、2008年同志社大学法科大学院アカデミックアドバイザー。大阪市北区の法律事務所勤務後、2011年1月独立開業。2012年10月立命館大学エクステンションセンター講師。2016年同志社大学大学院ビジネス研究科修了(MBA)。

新しい人材の育成、働き方改革が叫ばれる昨今、この流れは専門職と呼ばれる業種にも影響を及ぼしている。かつては、弁護士・税理士・建築士などの士業のみならず、経理担当者や法務担当者などの専門職と呼ばれる業種では、自らの専門分野を追求し続ける「I型人材」が主流であった。

「I型人材」に対して、1つの分野に対する専門性と幅広い知識の両方を備えた「T型人材」、さらに専門分野をもう1つ持ち、それらを融合させることができる「II(バイ)型人材」、さらに、ある専門分野に対する深い知見を持ち、同時に他の分野においても理解を示し、自分の観点で知識や経験を組み合わせ、活用できる「H型人材」があることは良く知られている。専門職と呼ばれる業種では、今でも「I型人材」が多いが、そのような中で、弁護士でありながら、ビジネススクール(経営大学院)でMBAを取得して、従来の「I型」とは異なる取り組みを行っているのが西村隆志法律事務所代表の西村隆志弁護士だ。

西村弁護士は、同志社大学大学院司法研究科(ロースクール)を経て第1回新司法試験に合格。その翌年の2007年7月には同志社大学ロースクール同窓会「寒梅会」を創設し、立ち上げから3年間代表を務めた。その後、2011年1月に独立開業し、現在は、山岡慎二弁護士、福光真紀弁護士とともに、弁護士3人体制で幅広い案件を手掛けている。

西村弁護士は、弁護士登録以降、様々な問題を解決する中で、自分の専門分野を追求し続けることはもちろんのこと、それとは別に幅広い経営の知識が必要と痛感し、2014年4月から同志社大学大学院ビジネス研究科(ビジネススクール)で学び、2016年3月にMBAを取得した。そして、2017年3月から同志社大学ビジネススクール同窓会「DBSネットワーク」の副代表に、今年3月からは代表に就任している。

### 「化学反応」を経験 ビジネススクールで

「ビジネススクールでは、当初は経営の知識を幅広く身に付けたいという思いがありました。それは必ずしもビジネススクールに行かなくても、独学で書籍を読めばある程度は身に付けられます。私が同志社ビジネススクールに行って良かったと思うのは、経営の知識を幅広く身に付けられたということよりも、それぞれの組織に所属している者が、一緒に学び、議論をする中で、単一の組織内だけでは必ずしも得られないであろう新しいアイデアや商品が生まれていく「化学反応」のプロセスを見ることができたことです」

西村弁護士は、このような「化学反応」を同窓会の中でも促進するよう取り組みを始めています。西村弁護士が「DBSネットワーク」の役員に就任してま

## DBS(同志社ビジネススクール)ネットワーク

同志社大学大学院ビジネス研究科在学中に培った人の輪が、「DBSネットワーク」として組織された。このネットワークは、各界で活躍するMBAホルダー(DBS修了生)たちの交流の場であるばかりではなく、在学生や教職員をもつなげる輪として、またMBAとしての資質を高めていく機会として有効に機能している。

